

「平成 21 年度第 2 回富県宮城推進会議」会議録要旨

日 時：平成 22 年 3 月 19 日（金） 午後 3 時～午後 4 時 15 分
場 所：宮城県行政庁舎 4 階 特別会議室
出席団体：資料名簿のとおり

1 開 会（司会：宮城県経済商工観光部富県宮城推進室 熊谷副参事）

2 あいさつ（宮城県商工会議所連合会丸森会長（会長））

- 我が国の経済状況は、景気の持ち直しなど、企業の業況判断に改善の兆しが見られるが、失業率が依然として高水準にあり、先行きは慎重な見方も多く、不透明な状況が続くものと考えられている。
- このような中、本県では、1月にパナソニック EV エナジーの新工場が操業開始し、またセントラル自動車新工場の稼働に向けた動きが本格化するなど、「富県宮城の実現」に向けた取組により、具体的な成果が現れつつある。
- 本日は、宮城県から、これまでの「富県宮城の実現」に向けた取組成果、「宮城の将来ビジョン」第 2 期行動計画や来年度予算などの説明とともに、議事として「地域懇談会」の開催について審議が予定されている。
- 「富県宮城の実現」に向け、構成団体一体での積極的な取組が期待されているので、皆様には一層の御協力をお願い申し上げます。

3 報告事項

- （1）「富県宮城の実現」に向けたこれまでの主な取組と成果について
 - （2）宮城の将来ビジョン第 2 期行動計画について
 - （3）平成 22 年度宮城県当初予算及び「みやぎ発展税」の活用施策について
- ※ 経済商工観光部若生部長より、資料 1 ないし 3 に基づき一括説明

（社）みやぎ工業会 川田会長

- フロネシス 21 事業に取り組み、新たなビジネスチャンス獲得に向け挑戦している。最近、活動が盛んになってきていることから、他のプロジェクトでも成果が出ることを確信している。

宮城県町村会 佐々木会長

- 企業立地の取組成果については、短期間、かつ、厳しい経済環境の中で 11 社の立地が確定し、大きな成果を出されたと思う。今後の自動車関連産業の立地見通しについてはどうか。

経済商工観光部 若生部長

- トヨタグループが、北米等で問題を生じていることから、関連会社は大きな設備投資を控えている。現在、県には、空き工場や土地の賃貸などの問い合わせが寄せられている。
- 今後は、セントラル自動車様の操業が開始し、関東自動車工業様と合わせると 50 万台の生産体制となることから、第 2 ステージとして第 1 次から第 3 次産業までの関連企業の誘致が期待できる。
- トヨタグループでは、宮城を第 3 の国内生産拠点に位置付けしており、関連企業は国内で生産拡大を行うのであれば東北という選択肢と考えていることから、今後とも誘致は有望と考える。

東北経済産業局 数井局長

- 宮城県は東北 6 県の中でも先を行くリーディング県として活躍していると思う。
- 産業振興や地域発展のためには、「機関」、「地域」、「業種」の連携が必要である。「機関」とは、産学で連携するケースの他や県と国、業界団体、金融機関、各種団体など、色々な機関がそれぞれの持ち場で力を持ち合って進めることであり、また、「業種」とは、自動車と電機、エレクトロニクスは一体になりつつあるため、これらが横の連携を図ることである。「地域」とは、宮城県の産業発展、「富県宮城の実現」のためには、隣県や他県との連携を図ることである。これら連携が重要である。このような考え方が第 2 期行動計画に組み込まれているのではないかと思う。
- 東北経済産業局としては、特に広域的な連携について支援できると思うので、「富県宮城の実現」に向けて協力させていただきたい。

仙台経済同友会 氏家代表幹事

- 宮城県には他県にはない勢いがある。企業誘致が象徴であるが、それだけではなく、色々な組み立てがあり、産業振興に熱意を持って取り組まれている。
- 発展税の活用についても、相当程度説明責任を果たされ、また、わかりやすい使われ方がされていると思う。今後も説明責任を果たされ、有効に使っていただきたい。
- 今後は、宮城県だけが発展するだけではなく、東北のリーディング県であるという認識を持って、周辺県と一緒に発展していくという気持ちが感じられる第 2 期行動計画であれば、なお良いと考える。

(4) 「富県創出モデル事業」について

※ 事務局（富県宮城推進室加藤室長）より、資料 4 に基づき説明

宮城県観光誘致協議会 大宮実行委員長（代理）

- 教育旅行は、少子化の中でもこれから継続されていく取組であるが、これまで宮城県は東北の中でも比較的対応が遅れていた。
- 教育旅行の取組は、やっと芽が出たところであり、刈り取るには手をかけて育てていかなければならない。観光は、地域の総合的な魅力を発揮する産業となってきている。「富県宮城」戦略で、県が良くなれば観光も良くなる大きな流れになっているため、今後ともよろしく指導願う。

宮城県商工会連合会 天野会長

- 3 年前から JAPAN ブランド 支援事業を引き受けており、今年度はパリで出展し、ある程度の成果を出すことができた。今後は在庫、価格の課題に対しサポートしていかなければならない。

(社) みやぎ工業会 川田会長

- 最近、大学からの支援をいただく機会が増えてきている。中小企業団体としては今後の取組に期待したい。

東北運輸局 菅野次長（代理）

- 観光の取組は、「商、工、農」の連携に加えて、地域の「食」と「人」を巻き込んで取り組ま

なければ競争に勝ち残ってはいけない。宮城で開催した「デスティネーションキャンペーン」や「伊達な旅キャンペーン」の取組はこれらの総合力が上手く発揮できたと思う。

- 本年度実施した体験メニューの掘り起こしや仕組みなどは、教育旅行だけではなく、今後期待できる個人向けの着地型観光にも活用していく方向で取り組む必要がある。
- ポートセールスについては、東北運輸局としても、物流の効率化に向けた体系整備を進めていきたいと考えており、関係機関と連携しながら協力させていただきたい。

東北地方整備局 青山局長

- 域内のコンテナ利用率が低いため、その原因を調査し、できるだけ仙台港の利用促進が図られるよう一緒に取り組んでいきたい。

(5) 平成 21 年度「富県宮城グランプリ」表彰について

- ※ 事務局（富県宮城推進室加藤室長）より、資料 5 に基づき説明
⇒ 質疑・意見等なし

4 議 事

「地域懇談会」の開催について（富県宮城推進会議会則の一部改正）

- ※ 事務局（富県宮城推進室加藤室長）より、資料 6 に基づき説明

宮城県商工会議所連合会 丸森会長（会長）

- 地域懇談会のメンバーはどのような構成を想定しているのか。

事務局 富県宮城推進室 加藤室長

- 産業分野横断型での構成を考えているが、地域においては、それぞれ産業の特色があるため、それらの実情に応じて構成することと考えている。今後、各地方振興事務所と詰めていく。

⇒ 一部改正案について了承。

5 その他

- ※ 事務局（富県宮城推進室加藤室長）より、資料 7 に基づき説明

○平成 22 年度富県宮城推進会議の開催予定

- ・ 6 月と 3 月の年 2 回を予定。
- ・ 6 月の第 1 回推進会議では、『「富県宮城の実現」に向けた取組』と「地域懇談会」の開催状況報告、平成 23 年度「富県創出モデル事業」の協議、一定のテーマでの宣言文の取りまとめを予定。第 1 回会議に向け各団体からの資料提供について、よろしくお願ひしたい。

宮城県観光誘致協議会 大宮実行委員長（代理）

- 「富県宮城グランプリ」個人の部で、私どもの会長がグランプリを頂戴した。また、「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」、「仙台・宮城【伊達な旅】キャンペーン」の実施に当たり、関係機関から協力をいただいたことに対し、感謝申し上げる。
- キャンペーンは実施して終わりではなく、築き上げた土台に、より一層磨きをかけていかなければならない。

- 近い将来、観光産業は「大交流時代」が訪れるといわれている。今までは、「宮城県と他県」との競争であったが、今後は、「世界の中の宮城」、「世界の中の東北」という形で競争していかなければ難しい。関係する皆様の力をお借りしながら総合力で取り組んでいきたい。

東北農政局 宮崎局長

- 東北農政局では、農山漁村の活性化は大きな柱のひとつであり、入込客数を増加させるため力を入れて取り組んでいる。3月中には基本計画が策定される予定にあり、関係諸団体や県と協力し取り組んでいきたい。

日本労働組合総連合会宮城県連合会 山崎会長

- 宮城の雇用実態は、東北の各県の中で最も厳しい状況にある。県内の産業が盛んになるため、他県から多く雇用を求めて来るため、実体的な数字が低くなってしまうことが大きな問題である。
- 宮城が中心となって東北全体を盛り上げていくことは大事であるが、雇用も全体で盛り上げていくと同時に、非常に厳しいことではあるが、県内の雇用もきっちり守るという両面を考えながら「富県宮城」を加速して取り組んでいく必要があると考える。

6 閉 会